

非侵襲的機能画像法を用いる脳機能の可塑性の解析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-09-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 米倉, 義晴 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/4089

福井大学研究シーズデータ

名前・学部・学科等	米倉義晴・高エネルギー医学研究センター・生体イメージング部門				
研究情報の分類	シーズ	特許	新製品	分析/解析	調査
研究分野の分類	13	以下の18項目から一つ選び番号を左欄に記入する。 1.物理系 2.エネルギー系 3.化学系 4.バイオ系 5.環境系 6.海洋・宇宙系 7.交通系 8.機械系 9.材料系 10.電子・電気系 11.情報系 12.建築・建設系 13.医学系 14.健康・保険系 15.看護・福祉系 16.農業・林業系 17.水産・畜産系 18.その他			
重点研究分野への該当	I T	ナノ	バイオ	環境・エネルギー	その他
キーワード(5個以内)	画像医学	脳機能	可塑性	発達	機能回復
研究情報の名称	非侵襲的機能画像法を用いる脳機能の可塑性の解析				
概要	<p>ヒトの環境に対する適応や学習はその多くを脳によっており、これに対応する可塑的变化が高次脳機能の基盤をなしていると考えられる。ポジトロン断層画像(PET)や機能的磁気共鳴画像(MRI)などの非侵襲的脳機能画像を用いて、感覚脱失や短期および長期の学習に伴う脳の可塑的变化、高次脳機能の加齢変化と脳における代償機構の関連を明らかにした。</p> <p><新分野への展開></p> <p>発達過程における脳可塑性画像化の可能性が示され、人間の発達生理学という新分野を拓く手段となりうると考える。また、損傷脳の機能回復や加齢により低下した認知機能の回復について、積極的に機能回復を目指す科学的な手法の開発への展開が期待される。</p> <p>分子イメージング法による新しい脳機能画像の導入により、脳機能の可塑性のメカニズムに迫る新たな研究手法が期待される。</p>				
関連している企業・大学・団体等	日本学術振興会, 生理学研究所				
関連する特許1件					
関連する論文1編	Sadato N, et al: Neuroimage 16: 389-400, 2002				